

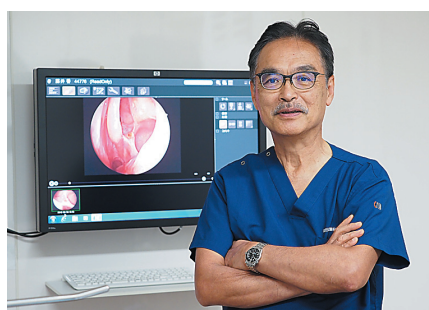
細田耳鼻科 EAR CLINIC

耳鼻の日帰り手術を積極的に行い 患者への負担が少ない医療を実践

大阪府豊中市にある細田耳鼻科EAR CLINIC(細田泰男院長)は、2000年の開業以来、副鼻腔炎(蓄膿症)の内視鏡手術をはじめ、中耳炎の鼓膜、鼓室形成術など、年間約800症例の日帰り手術を実施。「適切な医療で、できるだけ短い期間に治療を完了する」をモットーに、患者の身体、経済、時間の負担を最小限にとどめる患者ファーストな医療を実践している。

先進医療機器を備え 手術支援機器を独自開発 より安全で正確な 日帰り手術に努める

同院では開院から19年間にわたって日帰り手術を行っており、2018年度は786症例を実施。日帰り手術の対象となる疾患は、鼻では副鼻腔炎の内視鏡手術(ESS)やア



院長
細田 泰男
Hosoda Yasuo

1982年和歌山県立医科大学を卒業し関西医科大学耳鼻咽喉科学教室入局。93年医学博士号取得。同大学講師などを経て、2000年に「細田耳鼻科EAR CLINIC」を開業。副鼻腔炎の内視鏡手術など年間約800症例の日帰り手術を実施。

「アメリカでは手術の8割以上は日帰りで行われ、術後の通院も驚くほど短い。本来すべき治療を省略しているのではと誤解される方もいます。決してそうではありません。先進医療機器、独自開発した手術支援機器や術法など、高度な専門性や技術の裏付けがあつてこそ、日帰り手術は実現できるのです」と細田院長は力説する。

放射線被ばく量を大幅に軽減するCT検査装置や、患者のCT画像と手術ナビゲーションシステム、高解像度の4K内視鏡カメラも導入。「治療に有効な機器は導入する」と

の考えから、院内には先進機器が揃う。

独自の技術開発にも取り組んできた。例えば代表的な副鼻腔炎の内視鏡手術の場合、一般的にはマイクロデブリッター(電動式切除機器)を用いるが、術野の血液などによる汚れや吸引のつまりによる中断などを防ぐため、洗浄、吸引機能を付加し、凝固止血が同時に行えるジェットイリゲーションシステムや、中耳手術では、異物反応を抑え、ずれが生じにくい軟骨接合型人工耳小骨などをメーカーと共同で開発。手術時間の短縮と低侵襲化を行い、より安全で正確な手術を具現化している。

難易度が高いとされる耳硬化症のアブミ骨手術も日帰り手術で行なっている。「耳の手術でその日に帰れない一番の要因は、術後のめまいです。このめまいを防ぐ方法を確立することで、当院では手術当日に皆さん独歩で帰宅されています」と説明する。

手術は全身麻酔ではなく痛みのない局所麻酔で実施。「局所麻酔なら手術中にお話しすることも可能です。モニターに病態を映し出して患者様に説明し、コミュニケーションを確保することが手術の安全にもつながります。手術時だけでなく、処置中も医師と共にモニターを共有し、治療の経過を可視化する『目に見える



医療』も当院の特長のひとつです」と細田院長は語る。

現在、同院には細田院長を含め4人の医師が在籍し、毎週症例検討会を行い、難治症例などの治療方針について検討。複数の医師で検討することで、よりよい医療を提供できることも同院の強みである。

「日本では開業するとメスを置かざるを得ない耳鼻科医が多いのです。より低侵襲で適切な医療の選択と短期間に確実な治療を模索することが、今後の耳鼻科医療の発展にも繋がると信じています。治せる病気に対しては、患者様が病気から開放され、ご自分の人生の目的を十二分に達成して頂けることが私の目標でもあります。」と細田院長。同院のロゴマークには、病気を早く終わりにしようとの願いが込められている。



細田耳鼻科 EAR CLINIC

〒560-0022 大阪府豊中市北桜塚2-1-13
TEL.06-6853-0333
<http://www.hosoda-cl.com>